

## コッホ・北里神社

新年を迎え、初詣に行く神社には、神様を守護し魔除けを担っている狛犬がある。狛犬は“高麗犬”“胡麻犬”とも書かれ、朝鮮から渡ってきた存在ともいわれている。口を開いたものを“阿形”，閉じたものを“吽形”といい、寺院の仁王像と同じ，“阿吽”で宇宙の全てを包含する意味を持っている。

また狛犬には“子取り”“玉取り”で対をなしているものもあり、前足で子供をあやしているのが“子取り”，玉（まり）を押えているのが“玉取り”である。

埼玉県秩父市の三峰神社には、狼を眷族とし憑き物落とし霊験を持つ狛狼があり、さいたま市の“調神社”は、月待信仰から、狛犬ではなく狛兎が社頭で迎えてくれる。別称“調宮”の愛称で呼ばれ、勝負運の神社として知られている。

2015年、ノーベル医学生理学賞を受賞された北里大学特別栄誉教授の大村智先生は、受賞の喜びを語ったとき、「得られた研究の成果は単に業績として死蔵されるのではなく、公衆の福祉衛生に活用されるべきである」と、北里柴三郎博士（1853～1931年）の実学の信念に触れられた。

日本の細菌学の父といわれ、公衆衛生の功労者である北里と、彼がドイツ留学中に学んだロベルト・コッホ（1843～1910年）を祀った神社が埼玉県北本市にある。北里は、ベルリン留学時代（1886～1891年）、コッホに師事した。並外れた熱心さと努力によって、コッホの篤い信頼を得、その指導の下、1889（明治22）年、破傷風菌の純粋培養に成功、さらにその毒素に対する免疫抗体を発見し、それを応用した血清療法の確立など数々の輝かしい業績を挙げた<sup>1)</sup>。

1894（明治27）年、北里は香港で蔓延したペストの原因調査のため、現地に派遣され、ペスト菌を発見した。この成果は直ちにイギリスの医学雑誌 *Lancet* に発表された<sup>2)</sup>。

日本では1899（明治32）年以來大小の流行を繰

り返したが、北里の指導により、保菌ネズミの撲滅を図るなど国を挙げての防疫対策をした結果、被害は最小限に抑えられ、1926（大正15）年を最後に一掃された。

1910（明治43）年5月27日、コッホの訃報に接したとき、北里は深い悲嘆にくれ、コッホの遺髪をご神体として東京都港区白金の北里研究所にコッホ祠を建てて恩師を偲んだ。1931（昭和6）年に北里が逝去した際には、門下生らが北里祠を設けた<sup>3)</sup>。北里研究所創立75周年記念事業に設立された北里メディカルセンターの敷地内に大村記念館がある。その道路を挟んだ前に、北里研究所の守護神、崇敬報恩のしるしとして“コッホ・北里神社”として祀られている（写真1、2）。



写真1 コッホ・北里神社の鳥居



写真2 北里メディカルセンターのコッホ・北里神社

### ■ 参考資料 ■

- 1) 諸澄邦彦, 北里大学, *Isotope News*, No.654, 10 (2008)
- 2) 北里研究所, 北里研究所七十五周年誌 (1992)
- 3) 北里研究所ホームページ, <http://www.kitasato.ac.jp>

〔日本診療放射線技師会 諸澄邦彦〕